

〈巻頭言〉

Biblioteca Malatestiana と Malatesta Novello

図書館長・教授 山本 貴子(図書館情報学)

世界最古の図書館といわれるのは、アッシュールバニパルの図書館で、それ以外にも有名なところでは、アレクサンドリア図書館だと思われる。ただ、これらは、「図書館」という名前は付けられているが、現代でいうところの「図書館」とは機能が少し異なる。現在の図書館は、「人間の知的生産物である記録された知識や情報を収集、組織、保存し、人々の要求に応じて提供することを目的とする社会的機関」¹である。すなわち、館種によって多少の差はあるものの、収集や保存だけではなく、提供（および、提供することを前提とした組織化）が、否、むしろ、提供することが中心の組織だと考えられている。

その図書館のうち、ヨーロッパで最古の公共図書館であると、UNESCOの世界記憶遺産（世界の記憶）²に登録されたのが、「Biblioteca Malatestiana（以下、マラテスティアーナ図書館）」である。

ところで、どの資料を見ても「マラテスティアーナ図書館は、世界の記憶に登録された」と書かれている。無意識のうちに、世界文化遺産と混同していたのだが、実は、「世界の記憶」とは「人類が後世に伝える価値のある世界各国の文書、書物、楽譜、絵画、映画など、動産の記録物を登録・保護し、公開することを目的に1992年に国際連合教育科学文化機関UNESCOが始めた事業」³である。ということは、この登録も「マラテスティアーナ図書館」が登録されたのではなく、たとえば「***」という資料が登録された、とい



図1：マラテスティアーナ図書館

うのが正しいと思われる。

不思議なので、UNESCOのホームページで「Memory of the World」を確認した⁴。すると、この図書館以外の登録物では「**古写本」「**日記」「**楽譜」「**劇」などと書かれているのだが、ここだけは、「マラテスタ・ノヴェッロ図書館「The Malatesta Novello Library」」になっている。

それでは、UNESCOは、この図書館のいったい何を登録したのか。ホームページには「文書の遺産 (documentary heritage)」と書かれている。ただ、詳細を読むと「文書」だけではない。

それによれば「紳士の図書館として活動を始めたマラテスティアーナ図書館は、マラテスタ・ノヴェッロによって、公共の利用のために地元へ寄付され、ヨーロッパで最古の公共図書館の1つになった。建物、家具、文書のコレクションが15世紀のまま残っていることから、世界的に認められた。343点の古

写本が残されており、15世紀のまま読書台に鎖で結びつけられている。その資料は、ラテン語、ギリシャ語、ヘブライ語などを含んでいる。さらに、現在では Catalogo Aperto dei Manoscritti Malatestiani (マラテスタ写本の閲覧目録) というプロジェクトによって公開されている」ということである。ここから判断すると、活動、資料、建物・家具を含めたすべてが一つにまとまって認められたということであろうか。(それなら、登録に該当するのは「世界文化遺産」であろうとは思うのだが。また、建物は15世紀のままではない。これ以上は不明である。)

以下では、マラテスティアーナ図書館について概略する。

マラテスタ・ノヴェッロは、聖フランチェスコ修道院から図書館の設立要請を受け、1447年から1452年にかけて建築した。

図書館は長方形の大きな部屋で、2列に平行に読書機の列が並んでおり、両側にスペースと中央に広い通路がある。机と椅子とは一体化されており、横長で、同時に数人が使うことができる。机は全部で58台あり、左右に各29台ずつ配置されている。部屋の両側に取り付けられた窓は左右で22ずつあり、机上に自然光が最大限あたるように設計されている。防火のため、ろうそくやオイルランプは常に禁止されており、同じ理由から、部屋には暖房はない。

収集された資料としては、ラテン語、ギリシャ語、ヘブライ語、イタリア語などで書かれた9-15世紀の写本が約340点ある。内訳は、修道院から寄贈された聖書、神学、哲学などの古写本約50点、ノヴェッロが購入・寄贈したギリシャ語、ラテン語の古典が約120点、ノヴェッロの主治医が寄贈した科学および医

薬品に関するものが約100点とそれ以外である。

図書館が建築されたのは市内中心部、当時の役所から数十メートルのところである。また、マラテスタ・ノヴェッロは、修道院ではなくチェゼーナの共同体に彼の図書館の所有権を委ねた。これらにより、図書館の運営は修道院の修道士が担当したが、住民のアクセスが保証されたと言われる。



図2：15世紀のチェゼーナの地図

現在は、大きな建物の中に、マラテスティアーナ図書館、教皇ピウス7世が所蔵していた資料の教皇図書館、児童図書館、公共図書館が入っている。

冒頭に述べた「世界の記憶」への登録の理由でもわかるように、調査すればするほど疑問が増えてくる。特に、利用者についての情報は出ていない。今後も少しずつ研究していこうと考えている。

- 1 『図書館情報学用語辞典』第4版, p.172, 丸善, 2013
- 2 日本ユネスコ国内委員会は、「Memory of the World」の訳語を2016年以降、「世界記憶遺産」から「世界の記憶」に修正。
- 3 『ブリタニカ国際大百科事典 小項目主義』
- 4 <<http://en.unesco.org/programme/mow>> [2017/08/31]